

# バリ会議 (COP13/CMP3) 報告会 「バリ会議で何が合意されたのか」

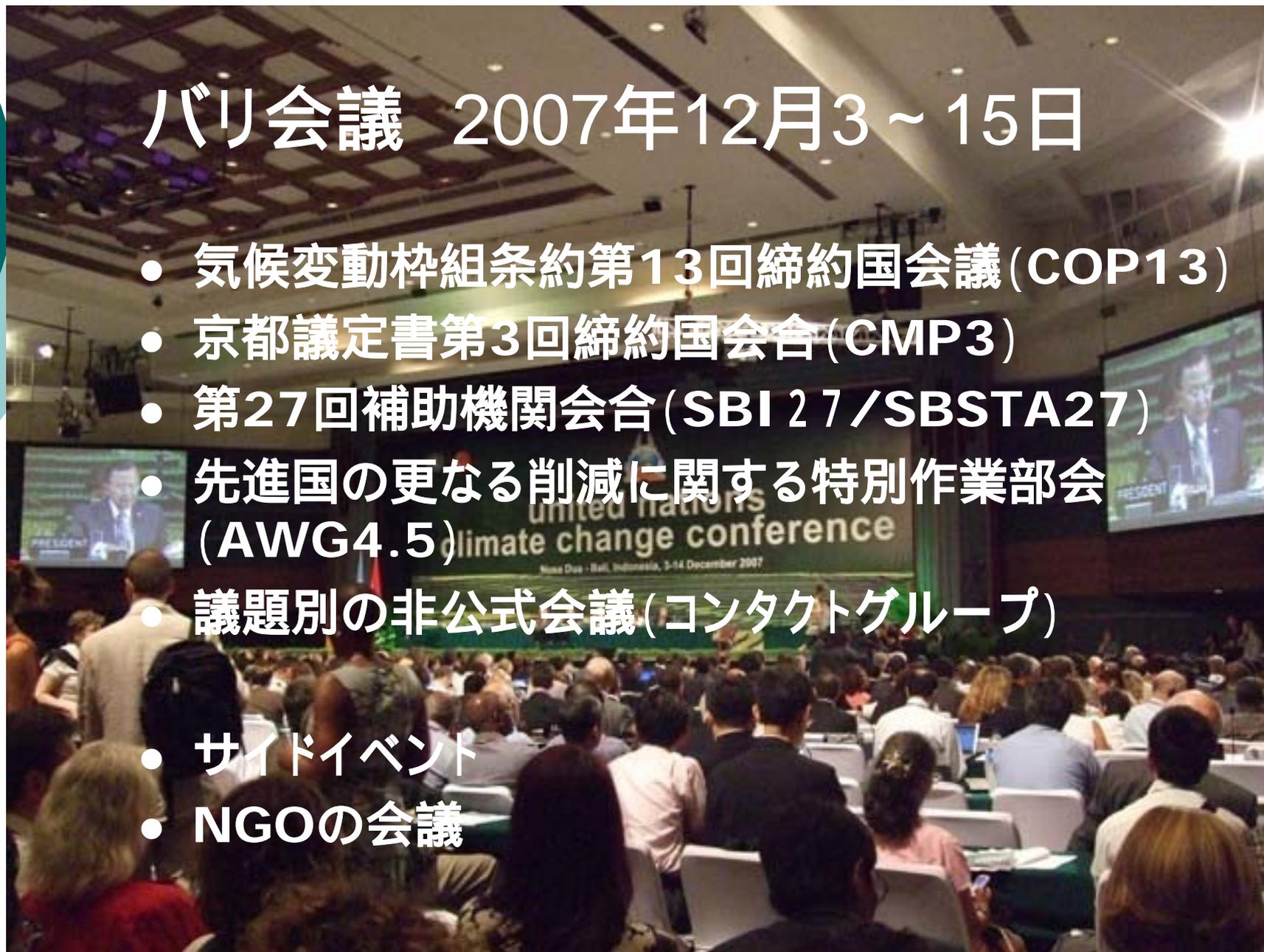
---

川阪 京子 気候ネットワーク

2008.1.27

# バリ会議 2007年12月3～15日

- 気候変動枠組条約第13回締約国会議 (COP13)
- 京都議定書第3回締約国会合 (CMP3)
- 第27回補助機関会合 (SBI 27 / SBSTA27)
- 先進国の更なる削減に関する特別作業部会 (AWG4.5)
- 議題別の非公式会議 (コンタクトグループ)
- サイドイベント
- NGOの会議



# 1. 世界から注目が集めた会議

- 世界中からメディア、政府関係者、オブザーバーを含む1万人以上が参加。
- 12月10日にノーベル平和賞授賞式を終えたアル・ゴア氏、そして、潘基文国連事務総長が来場し、バリ会議で交渉を開始する合意をするよう各政府に訴えるなど、世界中からその成果に注目が集まった。



## 2. バリ会議の主な争点

---

- 合意期限を伴った形で、2013年以降の次期枠組みに関する交渉を開始できるかどうか。

### 3. 最新の科学による排出削減の道筋

---

- 危険な気候変動を回避するには、この10～15年のうちに世界全体の排出量はピークを向かえ、削減に転じさせていかなければならない。
- 世界全体では、2050年までに50～60%の削減が、先進国は、2050年までに60～80%まで、2020年までに25～40%までの削減が必要

## 4. バリ会議での課題

---

- 京都議定書をベースにしつつも、京都議定書に参加していない米国、第1約束期間で削減抑制義務のない途上国も含めて、次期枠組みを検討することができるか
- 合意期日をいつにするか(第1約束期間の終了と次期枠組みの開始の間があかないようなタイミングで合意しなければならない)
- 最新の科学に対応した形で2013年以降の枠組を検討するのか

## 5. 次期枠組みに関する合意の概要(1)

### バリ会議で合意したこと

#### バリ行動計画

- ・条約の下に、全締約国が参加し、次期枠組みについて交渉する新たな特別作業部会を設置。
- ・2008年は4回開催し、2009年末のCOP15/CMP5までに合意。
- ・全先進国は各事情を考慮しつつ、総量排出削減抑制数値目標を含む削減約束や行動を検討。

#### 気候変動枠組み条約

#### 先進国の更なる削減義務に関する特別作業部会 (3条9項)

- ・交渉を継続し、2008年は4回開催、2009年末のCOP15/CMP5までに合意。
- ・目指すべきビジョンとして、IPCCの最新報告の最も低い濃度の安定化レベルを実現するために、世界全体と先進国に求められる中長期の削減レベルを明記。

#### 議定書の 見直し(9条)

- ・2008年に行う2回目の見直しの準備について合意。

## 5 . 次期枠組みに関する合意の概要(2)

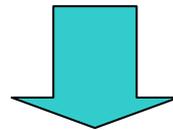
---

- 2009年末の合意に向け、次期枠組みに関する2年間の本格交渉が始まった。
- 全締約国の取り組み交渉する場(特別作業部会)と、京都議定書に参加する先進国の更なる削減を交渉する場(特別作業部会)の「2つの場」で交渉を進める。
- 京都議定書に参加する先進国の削減目標は、基本、法的拘束力のある総量の排出削減抑制数値目標。

## 6 . 日本政府の動き－日本提案

---

- 条約の下に、新しい特別作業部会の設置。
- 長期の削減目標のみの検討念頭に置き、2013年以降の目標については、特に、セクター別アプローチなどを検討。
- 国別の総量での排出削減抑制数値目標や達成期間については、言及せず。



- ブッシュ政権を巻き込むことを強く意識。そのために、京都議定書を潰してもかまわないといわんばかりの提案。

## 7. 日本提案へNGOから批判続出！！

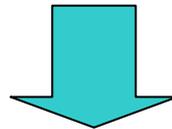
- ・ecoに日本案批判の記事掲載！
- ・CANの記者ブリーフィングで日本政府を批判！！
- ・初日の化石賞1～3位を日本が独占！！！！



## 8. 米国政府の動き

---

- 削減義務の方向性など、今後の取り組みのあり方を予見するいかなるものにも反対。

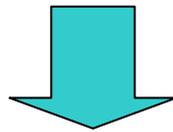


- 最終日2日前、深夜の非公式の交渉で、合意に向けた調整が行われる中、国別の事情に合わせて、削減義務でもセクター別でも、市場ベースでもどれでも選べるようにするという提案をした。
- バリ会議を潰してもかまわないといわんばかりの提案。

## 9. 途上国の動き

---

- 中国、南アフリカ、ブラジルなど、1年前に比べて、自ら進んで取り組むという前向きな姿勢と、バリで合意を作ることへの強い意欲が見られた。



- 最後、唯一反対した米国政府に対し、「合意の邪魔をするなら出ていってくれ」と発言するなど、途上国各国が強く、米国に妥協を働きかけ、合意に至る。

## 10. 島しょ国などの動き (1)

---

- 島しょ国や後発発展途上国は、危険な気候変動を避けるためにも、全ての国による早急な対応が必要であることを強く訴え続けた。
- 特にツバルは、先進国の更なる削減義務に関する特別作業部会の決定に、目指すべきビジョンとして、IPCCの最新報告の最も低い濃度の安定化レベルを実現するために、世界全体と先進国に求められる中長期の削減レベルを明記することを最後まで強く働きかけた。

# 10. 島しょ国などの動き (2)

---



ツバル政府の展示



ツバル政府、ツバル・オーバービューと協力して行った気候ネットサイドイベント

# 11. 日本のNGOの動き (1)

## 日本の記者へブリーフィングを毎日開催

---



# 11. 日本のNGOの動き (2) 海外の記者へのブリーフィング

---

12月4日



12月14日



12月11日



# 11. 日本のNGOの動き (3)

## 海外のNGOと日本政府代表団との会合

---



# 11. 日本のNGOの動き (4)

## 京都議定書10周年記念パーティー 12月11日

---



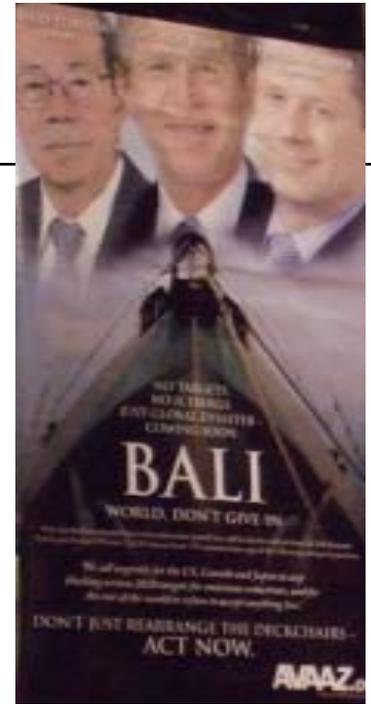
## 12. まとめ (1)

---

- どの国も、地球温暖化に対して、何もやらないわけにはいかないというところまで来た。
- もう、地球温暖化は先進国だけが取り組む問題ではなくなった。
- 10～15年後世界全体の排出量を削減に転じさせていけるような枠組ができるかどうか課題。
- そのためにも、先進国は、国別の総量排出削減数値目標をさらに深掘していかなければならない。

## 12.まとめ (2) 日本

- 最後まで、あと1年で終わるブッシュ政権に寄り添い、米・加とともに、抵抗勢力として見られた日本。



- G8の議長国として、最新の科学に対応した国際的な温暖化対策の枠組交渉をリードしていくためにも、この機会に、2020年の自らの国別の総量排出削減数値目標を発表することが期待される。



どうもありがとうございました。

---

kawasaka@kiconet.org